

研究テーマ：授業を活かした語彙力向上の工夫

所属 高知小津高等学校

氏名 鍵 本 佐 知

R G S H 2

1 研究の背景

本校は、3 年生理数科 2 クラスを習熟度別に 3 講座に編成している。1 講座は 2 クラス合併の Advanced Class、残り 2 講座は各ホーム別 Basic Class の形になっている。このクラスは、初級講座クラス（21 名）である。4 月にこのクラスを担当した時、語彙力のなさが生徒のリーディング力が伸びない大きな原因であると思い、**入試まで残された授業時間で、「せめて授業で出会った語彙だけは確実に生徒達の語彙として増やしてゆく」ということを目標とした。**

2 リサーチクエスチョン

授業中に教科書であった単語・熟語をいかに語彙力として定着させるか？

3 予備調査

予備調査 1 英語の語彙力を示すデータ

6 月 19 日、語彙力を診断する望月テストを対象クラス全員に実施した。（別紙参照）

クラス平均は 2839 語で、最高が 3633 語、最低が 2033 語である。しかし、授業中に基本的な語（句）の意味を質問してもわからないことが多い。

予備調査 2 アンケート、授業評価の結果

毎時間の語彙小テストを実施し始めて 2 ヶ月後、アンケートを取ってみた。（別紙資料参照）

86 パーセントの生徒が語彙力の少なさがリーディングを不得意にしている原因であると考えている。理数科の生徒の傾向なのか、文系科目は定期試験直前にしか勉強していないため、せっかくの授業内の学習事項が定着できていないようである。1 週間に 4 時間学習しているのに、それが定着しないのは大変もったいないことである。

4 仮説の設定

（1）仮説

仮説 1 教科書内の記憶の新しいうちに何回も反復して確認することにより、無理なく定着する。

仮説 2 教科書の文章を何回も読むこと（音読・内容読解）によって、文章の中の言葉・表現として定着する。

仮説 3 上記 2 つの仮説に加えて、予習の徹底で、語彙の定着を図る。（辞書使用）

5 計画の実践

毎時間繰り返して、記憶に新しいうちに前回の授業で習った単語・熟語の自己確認プリントをすることによって、

無理なく暗記させる。（評価には入れない。）「次の授業では、今日の単語・熟語の意味が試される」ということにより、授業中に記憶しようと生徒の集中度を増すきっかけにする。時には、数日前、数ヶ月前の復習をしてみるなど、頻繁に小テストをして定着を図る。少しずつテストの語数を増やすことにより、精神的な圧迫を減らす。又、前回答えることができなかった単語が次では解る喜びや達成感を感じさせることにより、生徒達にとってある種のゲームの様に楽しく、継続できる取り組みにする。語（句）の前に、通し番号を付けることにより、現在いくつかの語彙を学んできたかを知らせて意欲向上に努める。

実施法は、毎時間 5 分～10 分程度既習の単語・熟語の意味を書かせ、その後教員が意味を読み上げ生徒達は自己採点する方式である。2 回目になると、答え合わせは自信のある生徒達に自由に口々に正答を言わせる。評価に入れないため回収はしない。最後にどれくらい合っていたか、挙手で確認する。

6 実践の結果

（1）英語の語彙力を表すデータ

12 月に 6 月同様望月テストを対象クラス生徒全員に実施。最高が 3833 語、最低が 2000 語、クラス平均が 2923 語という結果だった。6 月と比較して、平均語彙数は 2839 語から 2923 語に少し上昇したにすぎなかった。語彙が最高に増えた生徒は、約 800 語増えている。その一方、語彙数が減った生徒も数名いる。（別紙参照）

(2) 授業評価アンケートの結果

4月からこの取り組みを始めて、途中の6月に実施したアンケートと比較すると、わずかではあるが生徒の意識の上では、授業中の単語・熟語の定着度は良くなってきている。「生徒達にとって語彙力向上のために効果的であったか?」という質問を、この実践法と従来の単語・熟語テキストを使用した小テスト形式の方法2通りについてしてみたが、前者は約80%、後者は52%が「効果的であった」という結果が出た。「2年次と比較して、教科書の語彙定着率はどうかと思いますか?」という質問に対して、90%(21名中19人)が「良くなった」と答えた。(詳細は別紙参照)

(3) この実践をしていないクラスとの比較

もう1クラスの基礎講座の生徒にも、1学期間に既習の単語・熟語確認テストを同様に試してもらい、比較した。1学期の既習単語・熟語数は265語で、対象クラスの正答語数平均は147語で正答率は55.4%、対象外クラスの平均は56語で21.1%であった。最高正答数は246語で93%であった。明らかに対象クラスの語彙の定着率は高かった。

7 結果の検証

1年間毎時間、既習の単熟語の意味確認小テストを実践してきた。平均語彙数は6月の2839語から2923語へとわずかに増えただけの結果に終わってしまった。1学期後半から、単熟テキストを使った小テストが学年全体の取り組みとして加わり、かなり語彙力向上に力を注いだつもりだったが、大した効果は上がらなかったといえる。

しかし、最高に語彙数を増やした生徒は約800語増やしており、少しは貢献しているのではないかと思う。実際にこの実践をしていないクラスとの比較でも、授業中だけの単語定着度に限定すれば大きな差が出た。語彙サイズテストを実施していないので断言はできないが、総体的な語彙数にはこれほど大きな差はないと思う。(2クラスとも同じ理数科のBasic Classなので。)又、何より実践して良かったと思うのは、対象クラスのほとんどの生徒達がこの実践にある種の達成感を感じてくれたことである。従来のテキスト使用の小テストよりも肯定的に評価してくれていることも今後の大きなヒントとなった。毎時毎時のことなのに、生徒達は飽きた表情を見せたことは本当になかった。むしろ、今日はどれくらい覚えているか自分で確かめることを(時には友人と競い合い)楽しんでいるようだった。テキスト使用の小テストとの大きな違いは、ただ授業に集中するだけでそのための何の家庭学習時間を費やさなくてもいいことであると思う。英語を不得意とする(好きでない)生徒達にとって、もう一方の方法は、効果的ではなかったようである。後者の方法に否定的な生徒の感想の大多数は、「付け焼刃的に覚えるだけで記憶に残らない。」「ほとんど事前に勉強せず受けるだけで意味がない。」というものである。

この対象クラス生徒には、1年間既習の単熟語全てをどれくらい覚えているか確認してもらおうとしたが、あまりの数の多さ(4月から12月迄で合計610語)に50分かけても全員仕上がらず、データとしては使えるものにはならなかったが、最後まで解いた生徒が私に手渡した時に言った言葉、「1学期と2学期中間試験までの部分は、教科書の話の中で記憶しているから、結構前のことも覚えていたけれど、4択問題のような問題形式で出会った単語・熟語は時間的にはつい最近なのに思い出できなかった。」は、文章の中で記憶したほうが、単語として覚えるよりもしっかりと定着するというを示唆してくれたように思う。そうすると、音読の反復や訳先渡し授業のような何度も文章を読み込むことも大いに語彙の向上に役立つのではないかと思う。

8. 成果と今後の課題

この実践は、客観的な語彙テスト上の数値データによると、残念ながら語彙力向上に大いに結びついたとはいえなかった。しかし、少なくとも授業中に学習した語彙の定着には効果があったように思う。

多くの生徒達からはこの実践に対して肯定的な感想をもらったけれども、6月から低下した生徒・ほぼ変わらなかった生徒がいることや自分が期待していたほど伸びなかったことは、今後反省してゆきたいと思う。「低下した原因はなんだろう?」「伸びなかった原因は何だろう?」と生徒達に聞くと、「進路が秋に決定したらゆるんでしまった。」とか「英語はやる気が出ずに終わった。」と口々に言っていたが、やはり大きな鍵は生徒をのせること(やる気を起こさせること)であると再認識した。まだまだ教師として力量不足であることを痛感した。

又、改善点として生徒が書いてくれている「時間の取りすぎ」も、私自身毎時間10分~15分はかかり過ぎだと思いい問題点ととらえていたので改善しようと思う。又、関連文献など全く参考にできないまま1年が過ぎてしまったので、客観的な考えや色々な工夫を取り入れることができなかったことも大いに反省すべき点である。

終わりに、添削や補習も大事だけれども、まずは日々の授業の学習事項が生徒達の学力になっていくことを生徒達に実感してもらい、授業の達成感を味わってもらいたいと、入試まで残された授業時間で、「せめて授業で出会った語彙だけは確実に生徒達の語彙として増やしてゆく」を目標にしてこの実践に取り組んできたが、本当に好意的に協力して取り組んでくれた生徒達に感謝している。「時には単語の順番を変えたプリントで自分達の語彙力の向上を図りたい」と意欲的に取り組んでくれた生徒達とのこの1年間は本当に楽しいものであった。「この取り組みは今後も続けていくべきだ」という生徒達の励ましに応えられるよう、一層努力・改善を続けていこうと思う。